

## FSO NEWS LETTER

vol. 2, 2007

FSO News Letter 第2号をお届けします。今回は、金沢大学におけるテニユア・トラック制度と科学技術振興調整費について紹介します。

## テニユア・トラック制度

前回、テニユア・トラック制度について簡単に説明しましたが、今回はもう少し詳しくテニユア・トラック(以後TT)について説明します。

テニユアとは？

皆さんすでにご承知と思いますが、テニユアとは終身在職のことを言います。TTを日本語にすると終身在職への道とでもなるのでしょうか。この制度のねらいは、一定期間(概ね5年)若手研究者に研究に専念できる環境を提供し、その間に優れた業績をあげた研究者を上位のテニユア職に昇任させるシステムです。しかし、研究分野によっては5年間で成果を上げることが難しい分野もあります。そのような理由から、金沢大学ではすべての部局で導入しているわけではありません。

## 金沢大学におけるTT制度

現在金沢大学には2つのTT制度があります(図1)。

1. 特任教員TT(准教授・助教)
2. 助教TT

### 1. 特任教員TT(FSO所属)

現在FSOが行っているのが、特任教員TTです。今年度5月に特任准教授を1名採用し、10月からは4名の特任准教授と3名の特任助教を採用する予定です。10月採用予定の7名に関する経費は、文部科学省科学技術振興調整費(科振費)の「若手研究者の自立的な研究環境支援促進」に採択された「新領域創成を目指す若手研究者育成特任制度」の費用を使用します。

FSOの特任教員に採用されると、准教授の場合総額3000万円/年、助教の場合、研究費300万円/年と外国出張経費などの助成を受けられます。3年後に中間評

価が課され、それによって4年目以降の研究費が決まります。最終年に昇任審査を経て准教授→教授、あるいは助教→准教授へ昇任し、テニユアを獲得します。審査は厳格に行われ、昇任が認められなかった場合、准教授→准教授あるいは助教→助教ということにはならず、金沢大学に残ることはできません。

特任教員には将来金沢大学において先端科学のリーダーとして活躍することが期待されています。

### 2. 助教TT(部局所属)

部局所属の助教TT制度は若手研究者の自立的、競争的な研究環境の整備を目的に平成19年度から導入されました。現在医学系研究科、薬学部が助教TT制度による人選を進めています。4月に第1回の募集があり、9月に第2回の募集を行います。

部局所属の助教に採用されると、大学がスタートアップ資金として初年度に300万円、2年目以降は研究費として200万円を支給します。研究に専念できるように部局が授業などに配慮し、研究スペースを確保します。また、助言者(メンター)の配置も行います。

導入した部局等には初年度150万円、2年目以降年50万円の支援経費が大学から配分されます。

選考は公募で行い雇用5年後に行われる厳正な審査にパスすれば、准教授に昇任できます。

どちらの制度も、国立大学法人等に在職している人が採用となった場合、退職した後に改めて雇用することになります。

これらの制度は若手研究者の研究環境整備を目的としています。充実した環境の中で優れた研究が生まれることが期待されています。

## 新領域創成を目指す若手研究者育成特任制度

これは平成19年度文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境支援促進」に採択された金沢大学提案のプログラムです。この経費を利用して4名の特任准教授と3名の特任助教を決定しました。特任准教授は新領域開拓への挑戦が期待されています。特任助教には、重点研究プログラムの強化と若手の自立的な研究の推進が望まれています。特任教員に対しては研究費の配分の他に、メンターによるサポートを受け、独立した研究環境の提供が行われます。また、それと同時にプログラムオフィサー(PO)と言われる研究マネジメントを行う人材の育成も行います。

このプログラムの目標は、

- ・国際水準を超える独創的な若手研究者の育成、
- ・新領域の創成と世界的な教育研究拠点の形成、
- ・人材システムの改革、です。

本プログラム終了後は、大学独自の取り組みとして継続し、世界の研究機関で活躍できる若手人材の育成に取り組んでいく予定です。これをきっかけに学内の活性化、より弾力性のある組織として歩んでいけるよう、さまざまな面でシステムの構築や改善を行っていきます。

# FSO NEWS LETTER



図1. 金沢大学におけるテニユア・トラック制度

## 公 募

FSOでは下記の分野で博士研究員、技術員を募集しています。  
詳細はJREC-INを参照してください。

### 博士研究員

溶液環境下で動作する原子間力顕微鏡 (AFM) の先端計測装置・手法の開発。特に、液中周波数変調AFM (FM-AFM) を用いた原子・分子スケール計測に関連した研究を重点的に行う。また、先端AFM技術を利用して単一分子レベルでのナノバイオサイエンス分野の研究を行う。

### 博士研究員及び技術補佐員

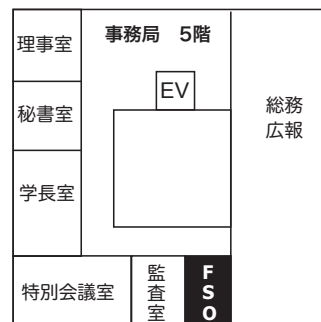
培養肝細胞または動物モデルを用いた、細胞内シグナル伝達経路及び転写因子の肝糖脂質代謝における役割の解析、培養肝細胞または動物モデルを用いた、肝糖代謝の変化に応じた遺伝子発現分析を行う。

### 博士研究員及び技術補佐員

ショウジョウバエをモデル動物として用い、分子遺伝学・組織染色・発生生物学・行動生物学を組み合わせた解析を行う。具体的には転写因子・分泌性因子・神経伝達物質の働きに着目し、神経細胞の運命決定・細胞移動・軸索走行・回路形成における役割、さらに行動を指標として脳機能における役割を明らかにする。技術補佐員の方にはショウジョウバエのエサ作り・飼育、簡単な実験補助をしていただきます。

## FSO OFFICE

FSOのOFFICEが8月から事務局5階（旧評価室）に設置されました。相談などがありましたら、事前連絡の上いつでもどうぞ。



## International Symposium INNOVATIVE SCIENCE が開催されました

8月7日（火）にFSOに所属する予定の特任准教授の選考を兼ねた国際シンポジウムが開催されました。6分野の若手研究者が、自身の研究内容と今後の研究プランについて発表を行いました。みなさまのご来場ありがとうございました。

### 編集後記

FSO News Letter 2号です。金沢大学におけるテニユア・トラック制度について簡単に紹介しました。

今月から特任教員が次々と着任します。着任された先生方については随時紹介していくとともに、公開セミナーを開催し、みなさまに周知していく予定です。

次回は、科研費について金沢大学の実態を紹介する予定です。

文責：稲垣美幸

### FSO News Letter

2007年10月22日発行

金沢大学フロンティアサイエンス機構  
920-1192 金沢市角間町 事務局5階  
お問い合わせ

内線：5266

メール：fsojimu@ad.kanazawa-u.ac.jp